



巻頭

おろかなる者と 往(ゆ)くなかれ
ただひとり 往くこそよけれ
ただひとり行くとも
あしきをばなさざるべし
かの林中(はやし)の象のごとく
求むること少なかるべし (法句経 330)

叙景 表紙を語る

コロナ禍のなかにあっても、春は確実にやってきます。身近な公園や小山にも、春の芽生えが広がり、林の色が変わっていきます。そんな林の小道を歩くと、心が安らぎ、気持ちが温かくなってきます。人は「自然」に帰ると言いますが、自然の営みを肌で感じながら、静かに歩く道は、いつか来た、なつかしい道を歩くような気がします。

◇新・法句経講義 65 ◇

<※ 「新・法句経講義」は、巻頭ページ掲載の法句経について解説しています。>

愚かな人と出かける位なら、一人で出かけた方がいい。ただし、一人だからといって、悪いことをしちやいけませんよ。林の中を進んでいく象みたいに、欲を出さずに行きなさい。だいたい、こんな内容の教えです。

一人で出かけるのは気楽ですが、少し寂しくもあります。「孤独のグルメ」という、ひとりで外食しているいろいろな店を紹介するTV番組がありますが、意外と人気があるようです。食事というと、家族や友だちとワイワイ騒いで楽しむもの、それが人の幸せみたいな定番を打ち破っていますが、人の幸せは食事の味だけではありません。そこが、弱点といえば弱点。いつも、幸せになりきれない主人公が、一人残っています。

コロナ感染対策のひとつとして、「孤食」が学校や職場で推奨されています。黙って、ひとりポツンと食事をする。感染症対策にはなっても、人との交わりのためには、はやく終わりにしたいものです。といって、悪い仲間とつるんで悪事を働いていい訳はありません。一人であること、また人とともにあることの意味を、コロナ禍のなか、改めて考えたいものです。

仏教豆知識 84 諦

諦(たい)は一般に、「あきらめる」という意味で使われる字ですが、「つまびらか」とも読まれ、仏教では「真理」「原理」を表す言葉、また「あきらかにする」という意味で使われます。お釈迦様は、その最初の説法(初転法輪)で、四諦(したい;苦・集・滅・道を悟る)という教えを説かれますが、この四つの「諦」(真理)が仏教実践の根本となります。神田寺の先々代住職・圓諦上人、先代住職・諦道上人とも、生涯この「諦」の字僧名とされました。

＜ 主管所感 ＞

音の響く場所

友松浩志

西墓地に新しい建物が出来て、そこで法事をする方が多くなった。神田寺で法事をして墓参で墓地まで移動するのと比べて、当然便利になった。東墓地にもそんな施設があったらいいとは思いますが、今のところ土地も資金もないので、しばらくご辛抱頂きたい。この新しい建物は木造の小さなものだが、2階のホールは教会の礼拝堂のような雰囲気がある。木目の壁に囲まれて、窓は上方にしかない。音が響いて、お経の声がよく通る。キリスト教の教会には、ほとんど窓がない。明かり取りの窓にはステンドグラスがはめ込まれ、わずかな光がきらめいている。教会がそんな暗い、閉ざされた空間になったのには理由がある。それは、迫害の歴史だ。

ローマ帝国時代、初期のキリスト教徒は壮絶な迫害を受けた。カタコンベという地下の墓地はよく知られているが、祈りの場所も洞窟のような閉鎖空間だった。そして、そこで生まれた歌が、ヨーロッパ音楽の起源となった。祈りの歌が「聖歌」となり、楽器の発達とともに、多くの作曲家が作品をつくった。閉鎖空間によく響く、それがヨーロッパ音楽の伝統となり、今日でも「音楽ホール」といわれる場所は、ほとんど窓のない閉鎖空間となっている。

仏教寺院でも、大きなお寺の本堂だとよく音が響く。でも大抵は、畳に音が吸収されて響きが悪い。建物のづくりも開放的で、隠れて祈る場所ではない。多くの人が集まって、ともに祈りを捧げる場所である。日本の伝統音楽の世界でも、能の舞台など外に向かって開放的につくられている。音の響きは、あまり重視されない。

話がだいぶ横道にそれてしまったが、建物に続いて、西墓地に現在「合同墓」を建設中である。これも、今までの形にとらわれない、「樹木葬」風なものを計画している。また一部、ペットのお墓にも対応できればと思う。いろいろ工夫しながら、何より心が安らぐゆったりできる場所をつくってきたい。

◆ 自然のなかで ◆

— 雪あそび・芝すべり —

コロナでさまざまな行事が中止されるなか、卒園間近の年長児には、出来るだけ豊かな経験をと願って、自然のなかに出かけて行きました。



神田寺幼稚園では、年末、越後湯沢に1泊2日で宿泊保育に

行き、雪あそびやそりあそびを楽しみました。幸い雪も適度にあつて、広々とした新雪のゲレンデで思い切りあそぶことができました。年末は感染状況も安定していたため、密にならない、様々な工夫をしながら、無事に過ごせました。



真理学園幼稚園では、1月に恒例の芝すべりに行き

ました。園から徒歩1時間ほどにある「お山」の公園には、巨大な芝の山があり、冬枯れの時期には絶好の芝すべり場になります。自分でつくったダンボールのソリをお尻に敷いて、初めは恐るおそる、慣れると大胆に、ダイナミックにすべり降りる子どもたちの歓声が響きました。

◆ 新年修正会 ◆



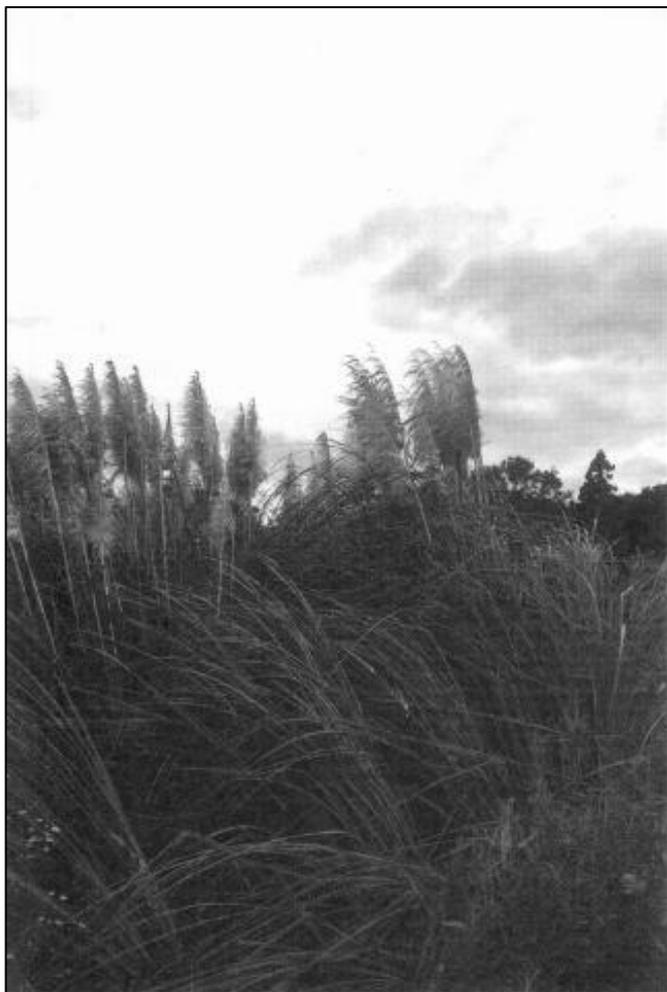
新年の幸せを祈る「修正会」(しゅしようえ)が、

元日午後2時から、神田寺の会堂で行なわれました。今年も数人のご参加でしたが、神田寺の勤行式で読経のあと、主管より新年のご法話がありました。「発願録」(ほつがんろく)に新年の抱負を記帳して頂き新鮮な気持ちで迎えるお正月になりました。

◆ 西墓地に合同墓建設 ◆

神田寺の西墓地に「合同墓」の建設が進められています。別院が出来、使用されなくなった旧入口の場所に、公園墓地形式で計画されています。一部、ペット墓地の区画も予定されています。3月末には完成の予定です。

(2022 年) 8 月 1 日発行



まこと

いろいろわしく

あでやかに咲く花に

香 (かおり) なきがごとく

善く説かれたる語 (ことば) も

身に行わざれば

その果実 (このみ) なかるべし

(法句経 51)

どんなにづらい夏の暑さも、秋の訪れとともに遠のくように、コロナの苦しみも一日もはやく去って行ってほしいものです。ともかく季節は、確実に秋に向かっていきます。気温が下がり、秋の植物が広がっていきます。いろいろな秋の行事が準備されていますが、そのひとつ一つが、無事に行なえることを心から祈っています。

◇新・法句経講義 66 ◇

<※ 「新・法句経講義」は、巻頭ページ掲載の法句経について解説しています。>

夏の暑さのなかに、色あざやかな花々が咲いています。だからといって、その花すべてに、いい香りがあるわけではありません。

お釈迦さまはそれをご存じで、そうした花に結びつけて、「人」のあり方を説かれます。口先だけでいいことを言っても、実際に実行しなければ何も実らない。選挙演説においても、広告や宣伝にしても、人を引きつける「言葉」が飛びかいますが、実際にその「言葉」や「宣伝文句」が本当か、実行されたか、となると怪しいものがたくさんあります。

言葉で人を引きつけたり、誘ったり、「嘘をつく」ことだけでなく、立派な意見や発言も、それがその通り実行されてはじめて意味が生まれます。

「ネット社会」の今、様々な発言や意見がネット上に飛びかっています。素晴らしい意見 もありますが、どうやって実現するのか分からない、無責任な意見もたくさん見られます。

「有言実行」(ゆうげんじっこう)の精神、言ったことは必ず実行する、言ったことに責任を持つ、という精神は忘れたくないものです。

仏教豆知識 85 曼荼羅

曼荼羅(まんだら)というと、たくさんの仏様を描いた「画像」を思われる方が多いと思います。「曼荼羅」の言葉の本来の意味は、「円盤」「集まり」「本質を得る」ということで、密教では、世界は大日如来の現れで、その世界を悟りの境地で見た時、見えてくるのが「曼荼羅」とされます。知徳を表す「金剛界曼荼羅」と、慈悲を表す「胎藏界曼荼羅」があり、その画像は仏様の世界を表し、信仰の対象となります。また、「斑点模様」の「まんだら」は、曼荼羅に由来すると言われます。

< 主管所感 >

何が起こるか分からない

友松浩志

暑い夏の入口、安倍元首相の襲撃・暗殺事件には驚かされた。安倍家が浄土宗の檀徒という関係で、増上寺の年頭の会にはいつも参詣されていたので、遠くからそのお姿は拝見していた。誰も「明日の我が身」は予想出来ないものだが、本当に「何が起こるか分からない」世の中である。

この夏は、コロナの感染拡大で、いろいろ計画はあっても、なかなか実行できない夏になりそうだ。昔、山登りをさかんにやっていたので、少し歩いてみようかと、パソコンでユーチューブなど開いて見ると、ライブで山の様子が見られる。

一番ポピュラーなのが、上高地のカップ橋のライブだろうか。正面に奥穂高を望む岳沢の風景。行き来する人達の姿を見ていると、まるで自分がそこにいるような気分になる。ユーチューブには、〇〇山登山といったドキュメンタリー画像があふれていて、登山口から頂上まで、一緒に登っていくような気分で「登山」を楽しむことができる。

現役時代、最も苦しく困難だった「槍ヶ岳・北鎌尾根」さえ、女性の単独ドキュメント画像がある。(とはいえ、それは無雪期の画像で、こっちは冬に登っている。)そんな、憎まれ口を言いたくなるほど、「うらやましい画像」ばかりだ。

そして一方の現実、中高年登山者の遭難事故の頻発。昔の体力はとっくに喪失して、感覚もにぶった身体で、かつてのように登れるわけがない。「何が起こるか分からない」世の中どころか、「何が起こるか分からない」自分の身体をかかえて、いったい何がこれから出来るのか。

安倍さんの功罪はともかく、ああして最後まで「一心に」働かれた姿を思う時、やはり「自分の思い」を貫く意味を考えさせられる。「もう一度あの山へ」、心も身体も準備できるなら、そんな自分も悪くはないのかも知れない。

■ 西墓地別院 ・ 合同墓のご案内 ■

— 新しい形の合同墓が西墓地に完成 —

— 昨年、西墓地別院が出来ましたが、懸案だった「合同墓」が、5月に完成しました。東墓地には以前から「合同墓」がありますが、西墓地にはなく、また近年「樹木葬」や、「公園墓地」といった形式が普及するなかで、新しい形の「合同墓」をどんな

ものにするか、長く建築関係の方と検討を重ねてきました。



完成した「合同墓」は半地下形式で、半円形をしています。大人が降りて入ることも出来ます。(写真:左側が入口)一部ベットの区画もあり、採光窓があるため光が入ります。

鉄筋コンクリートの、しっかりとした構造で、上面には地蔵菩薩像が数体飾られています。この地蔵像は、戦前は墓石として使用されていたもので、いずれも江戸時代の作です。(戦後、神田寺の庭に保管されていました。)まだ植採は充分ではありませんが、いずれは緑で全面をおおって小さな林のようにする予定です。(供養・使用費用等は別途お知らせ致します。)



△ 墓地側から見た西墓地別院



△ 法事も行なえる2階の礼拝堂

<真理ニュース>

◆**彼岸会** 孟蘭盆会と同じ対応で、以下の通り実施します。

①**法要参加** 9月23日(金)午前10時・12時・午後2時の3回、西墓地別院で法要を行ないます。

(各回先着20人、東墓地の方も参加できます。)

・当日は**自由墓参**とし、両墓地ともお墓での読経を随時行ないます。両墓地で、お土産のお寿司を用意しております。(午前9時～午後5時)

②**卒塔婆供養** 同封の葉書(秋彼岸会塔婆供養申込書)でお受け致します。

・先祖供養塔婆は、1本：3000円です。(振込用紙をご利用下さい。)

・戒名を入れた個別供養塔婆をご希望の方は、別途官製はがきでお申込み下さい。(個別供養塔婆は1本：4000円です。)

◆**真理舎の会** 10月14日(金)午後1時30分～3時 神田寺仏間にて

12月9日(金)午後1時30分～3時 神田寺仏間にて(兼・成道会)

・主管による分かりやすい仏教講話があります。お気軽にご参加下さい。

※今号の発行が大幅に遅れましたこと、お詫び申し上げます。

「真理通信」はこれまで、3月・7月・12月の年3回の発行を心掛けてまいりましたが、今回8月の発行、9月の発送とさせて頂くこととなりました。次号以降の発行については、前号との間隔などを考え、3月・8月・12月の発行とさせていただきます。